

(別紙様式)

令和 7 年度「いわて中山間賞」候補調書

集落等の名称		ふりがな つちぶちちょうのうそんかつせいけいぎょうぎかい 土淵町農村活性化協議会						
集落等の状況	市町村	遠野市						
	代表者 氏名・住所	氏 名	あらかわ えいえつ 荒川 栄悦			住 所		遠野市中央通り 2-11
	構成員 (1)		世帯数	構成人数	うち 農業者	うち 非農業者	うち 女性	うち 45 歳未満
		地域全体	748 戸	1780 人 (- 組織)	513 人 (- 組織)	- 人	888 人	509 人
		うち 中山間地 域等直接 支払制度 の協定集 落	70 戸	70 人 (7 組織)	70 人 (7 組織)	0 人	7 人	3 人
	農用地の 作付け状況 (2)		計	水稻	牧草	大豆	その他	
			46, 407a	21, 638a	7, 150a	3, 688a	13, 931a	
集落等の概況等	集落等の概況 (3)	土淵町は遠野市北東部に位置し、小烏瀬川や荒川高原などを含む中山間地域である。 また、「遠野物語」の話者である佐々木喜善の生誕の地であることから、町内には遠野物語に登場する地名や建造物などが数多く存在しており、市内有数の観光スポットとなっている。 一方で、遊休農地や旧校舎の活用方法、小集落のコミュニティの維持といった課題を抱えており、住民の活動意欲はあるものの、具体的な取組の見当がつかず、また、土淵町のまちづくり組織である「土淵町まちづくり協議会」だけではすべての課題解決に向けた取組をバックアップすることができない状況であった。 そこで、まちづくり協議会が対応できなかった事業を担う組織として「土淵町農村活性化協議会」を令和 4 年度に設立した。 当協議会は、「認定 NPO 法人遠野山・里・暮らしネットワーク」を事務局に、「土淵町地区環境保全協議会」、「農事組合法人こがらせ農産」、「株式会社遠野郷」、「土淵町まちづくり協議会」、「土淵町米通自治会」の計 6 組織で構成されており、いずれも土淵町内の 1 次産業や地域活性化を担ってきた組織である。 それぞれの組織の特性を生かしながら、令和 4 年度に地域住民と話し合い、作成した土淵町農村活性化計画（通称「でんでらパラダイス構想」）の実現に向け様々なプロジェクトに挑んでいる。						

	集落等の組織体制図 (4)	①…農用地保全担当 ②…地域資源活用担当 ③…生活支援担当
	将来の 目指す姿 (5)	「でんでらパラダイス構想」(若者も高齢者も自ら持てる知恵や、技を駆使し、みんなが協力して土淵町を「パラダイス」、つまり桃源郷にしようとする思いで作った土淵町の活性化ビジョン。)に掲げる、9つのプロジェクトを軸に各組織と連携し合いながら、土淵町の魅力をさらに引き出し、地域の課題解決を目指す。 ※「でんでらパラダイス構想」を添付
集落等の概況等	地域の活性化の取組内容 (6)	1 地域の活動のきっかけ 土淵町では、少子高齢化や小集落のコミュニティの維持、町内の旧校舎活用、遊休農地活用など様々な課題を抱えており、課題解決に向けた地域住民の活動意欲はあるものの、取組の見当がついておらず、また、土淵町のまちづくり組織である「土淵町まちづくり協議会」だけではすべての課題解決に向けた取組をバックアップすることができない状況であった。 そこで、地域運営組織が対応できなかった事業構築を担う組織として土淵町農村活性化協議会を令和4年度に設立し、農村RM0モデル形成支援事業を活用しながら、地域住民が話し合い、作成した、土淵町農村活性化計画である「でんでらパラダイス構想」の実現に向け地域住民自らがプレイヤーとなり、様々なプロジェクトに挑んでいる。

2 地域の活性化に向けた取組活動の特徴と成果

(1) 農用地保全

町内の遊休農地が増加しているが、安定的に栽培できる耕作地を求めている農業団体があることから、遊休農地で高品質なそば・小麦等の栽培や加工・販売方法について検討し、実施体制の確立を通して遊休農地の解消を目指した。

栽培方法については今後も検討が必要な部分はあるが、収穫された食材は小売店や飲食店への販売の他に日替わりシェフレ스토랑「でんパラ」への食材提供等にも活用されている。

また、地域に高収益作物や夏のギフト商品が少ないことから、新規農産物の導入についての検討も行い、町内の農業団体と農家が協力をして高級メロンの栽培を実施した。販売に向けてサイズや糖度の均一化を図る必要があるが、首都圏の有名小売店への出荷を目指して栽培体制の確立に取り組んでおり、今後も栽培面積を拡大していく方針としている。

(2) 地域資源活用

市内の中学校が統廃合されたことにより、廃校となった旧土淵中学校の空き教室の一室に数年前に民間企業が改修をしたレストランがあったが、未使用のままとなっていたことから、日替わりシェフレ스토랑「でんパラ」を開業。日替わりでシェフやメニューが変わることを基本的なスタンスとしており、様々なシェフの活躍の場となっていることや、多様なお客さんのニーズに合わせた運営ができることが強みとなり、市内外を問わず利用者が多く、地域住民が気軽に集える場（居場所）づくりにも寄与している。

また、他の空き教室についても、手工芸（竹細工、わら細工、ホップ和紙など）の講習会や制作を行う場として活用されており、商品化の目途が立っているものもあるため、今後は販売に向けた活動が期待されている。

(3) 生活支援

市の中心部から離れた集落がいくつかあり、そこでは、高齢者の居場所づくりや買い物支援などの生活支援が不十分であった。そこで、米通地区をモデルに遊休農地を活用した新規農産物の導入や旧校舎でのレストラン活用等の取組と組み合わせ、地元の雇用や交流の場を増やすなど、高齢者の活躍の場の創出や生きがいに取り組んだ。

令和6年度は山林を活用した事業や体験メニューとして「炭焼きツアー」を実施したところ、高齢者の雇用の創出や生きがいに繋がった。また、参加者にはこれからの米通集落のスモールビジネス（炭づくりやツアー）に係る担い手としての期待を持っている。

(4) 市民農園

旧校舎に隣接している遊休農地で市民農園の取組を行っており、農園の利用者と地域住民の共同作業により栽培が行われている。

今後もこの取組を継続し、市内外の関係人口の拡大を目指す。

市民農園の利用者は「農的暮らしの実現」、地域住民は「小さな産業」や「生きがいを得ること」を目的としており、また、利用者の多くが移住者や地域おこし協力隊として遠野で暮らす農業未経験者であったことから、地域住民は農業指導者・遠野で暮らす先輩としてのサポート役を担っている。

この農園では、トマトやかぼちゃ、玉ねぎのほか、遠野市の伝統野菜である「琴畑かぶ」も栽培されており、日替わりシェフレ스토랑「でんパラ」で実食会を行

		うなど収穫後の交流イベントなども過去には実施している。 令和7年度からは、都市部の来訪者がおためしでこの農園を利用できるよう取組を行っており、農作業を通じた地域内交流のみならず都市農村交流の場にもなっている。 今後は、地域の小中学生の保護者や移住者をターゲットに宣伝を行い、農園を活用したイベント等を実施する予定。
		3 今後の課題と将来展望 地区センターの指定管理や町内のまちづくりを担う地域運営組織である「土淵町まちづくり協議」が既に行っている事業（高齢者支援、コミュニティづくり）と本取組をさらに連携させ、各プロジェクトの進捗管理や、組織とプレイヤーとの連携をサポートしていきながら、新規農産物等の生産・商品開発、市の中心部から離れた集落の活性化や生活支援など地域の課題解決に向け、引き続き取り組んでいく。 また、プロジェクトに携わるメンバーの人材育成を図りながら、持続可能な体制構築を図っていく。

集落の活動写真 (7)



(活動拠点である旧土淵中学校)



(ワーキンググループの活動の様子)



(日替わりシェフレストラン「でんパラ」)



(炭窯での作業)

令和 7 年 9 月 8 日 遠野市土淵町農村活性化計画

でんでらパラダイス構想

～高齢者の経験と知識を結集し、多世代が協力して安心と笑顔で暮らせるまち土淵～

土淵町農村活性化協議会

事務局：認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク

マネージャー 田村隆雅

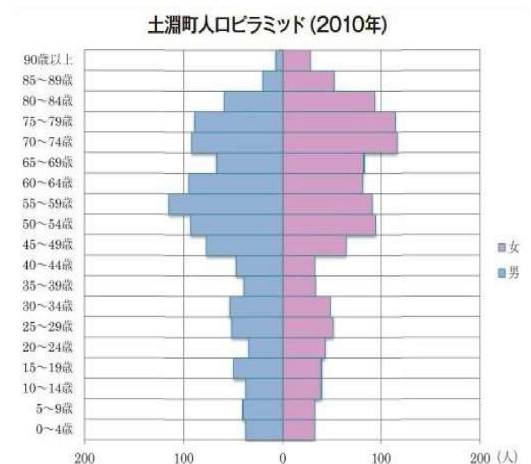
1

遠野市土淵町について

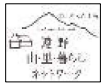


地域範囲 旧市町村（小学校区）（22集落）
 土地面積 9,219ha（遠野市の14%）
 農地面積 843ha
 世帯数 745戸

R 4 年10月時点



遠野市 土淵町の現状① ～農用地保全～



◆少子高齢化に伴い農家減少

遠野市の人口は、平成2年(1990)から平成27年(2015)の25年間で約19%減少している。販売農家戸数の減少も顕著で、同じく25年間で4,700戸から2,000戸に減少している。経営耕地面積は、5,800haから45%減少し、遊休農地が増えている。土淵町も同様の傾向である。今後は、人口増加による成長型まちづくりから、取り組みの質を高めることを重視した成熟型まちづくりへの転換が必要となっている。

◆農用地保全の必要性

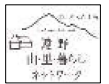
ほ場整備等の基盤整備をした優良農用地は、農業生産環境の維持のための保全活動が必要である。

◆高収益作物の必要性

遠野市は、多様な作物が作付け可能であり、産地直売所等の活動も活発である。しかし、農家が高収益を得られるような作物が足りず、結果として農家所得も上がっていない。農業の後継者不足等の課題を解決するためにも、新規の高収益作物を作ることへの期待感は大い。



遠野市 土淵町の現状② ～地域資源活用～



◆地域の拠点となりうる空き校舎の活用が出来ていない

遠野市内の中学校が統合したことに伴い、旧土淵中学校が空き校舎となり、その活用が求められている。一時、東日本大震災の後方支援やまちづくりの拠点として機能していたが継続することができなかった。その後、有効な活用策を実践することが出来ていない。近年、行政の協力を得ながら、住民主体で活用する機運が高まっている。



◆観光資源の充実と農泊の活性の必要性

遠野の観光は通過型であり、宿泊を伴わない観光客が多いことが課題である。土淵町には、たかむろ水光園という宿泊・入浴・食事施設がある。『遠野物語』に代表される歴史・文化が多く残り、伝承園やカッパ淵、カッパ茶屋など観光施設等も多く点在する。近年、2軒の農家民宿が開業し、更に多様なニーズに対応する宿泊サービスが提供可能になった。まだまだ観光客等の受け入れ体制は不足しており、多様な資源の活用によるツアー造成等が必要である。

◆地産地消、食育への関心の高まり

地域内で生産された農産物の地域内での消費(地産地消)や地元食材の活用や郷土料理を活かした給食などを通じて、生産者の思いが伝わる「食育」への関心が高まっている。

遠野市 土淵町の現状③ ～生活支援～



◆不安は移動と地域の支え

平成 25 年(2013)に遠野市が行った市民の意識調査によれば、少子高齢化の進展により、日々の生活や移動に不安を抱える人や地域の支えを必要としている人が増えている。この傾向は土淵町において、特に中心部から離れている小集落において顕著である。

◆このままでは、この集落で暮らし続けられない

土淵町には、戸数が 10 軒未満の小集落が 3 地区ある。このような中心部から離れた集落では、買い物等の生活支援や医療福祉サービスの不足によって、暮らしそのものが成り立たなくなっている。

◆子育ての心配

子育てをしている親を孤立させず、地域で子供を守り育てていく環境を整えることが求められている。



◆二次交通の必要性

高齢者のみならず、観光客などの来訪者も含め市内交通体系の充実が望まれている。

◆地域活動に意欲的な高齢者が増えている

第 2 の人生として、地域活動に意欲的な高齢者が増えている。また、自然との調和、うるおいや安らぎのある環境、景観を形成する水と緑、地域共生社会、地域の歴史・文化、人との触れ合い、心の豊かさ、心のバリアフリー等への関心が高まっている。

5

事例 1

土淵町農村活性化協議会

Profile

プロジェクトタイプ

地区：岩手県遠野市

事務局：認定 NPO 法人遠野山・里・暮らしネットワーク

地域範囲：小学校区（22 集落）

土地面積：9,219ha

農地面積：843ha

世帯数：745 戸

構成員：株式会社遠野郷 / 認定 NPO 法人遠野山・里・暮らしネットワーク / 土淵地区環境保全活動協議会

土淵町まちづくり協議会 / 農事組合法人遠野こがらせ農産 / 土淵町米通自治会

活用した他の施策：中山間地域等直接支払交付金、多面的機能支払交付金



プレイヤーの「やりたい」からスタート

最初に、令和 4 年度に地区内外のプレイヤーを集め、やりたいことを出し合うことから始めました。そこで出たアイデアを元に 18 プロジェクトからなる「でんでらパラダイス構想」を作りました。



できるだけ多くの人でグループ結成

引用：岩手県の農村RMO伴走支援事業サイト R6年4月時点

組織作りから始めるのではなく、やりたいことがある人が集まって、それぞれやりたいことをやる体制として、協議会ができました。



地域を元気にするためにそのきっかけをつくる 組織や機会を創り、住民がプレイヤーとなる計画が必要

高齢者の経験と知恵を結集し、多世代が協力して安心と笑顔で暮らせるまち土淵

- 1) 早い時期から農業法人が立ち上がり、遊休農地活用や特産品開発等ができる体制がある。
- 2) 観光施設や歴史・文化財も多く点在し、農泊も活発な市内有数の観光地である。
- 3) 更なる観光振興や農泊の活性化により地域社会及び経済の活性化が出来る可能性の高い。
- 4) 空き校舎（旧土淵中学校）を多様に活用し、地域課題の解決を図ることが望まれている。
- 5) 買い物や移動支援、医療・福祉等の生活支援が不足している。
- 6) 地域活動に意欲的な高齢者や人材が増えている。

取り組みのポイント



本協議会は、行政や連携組織等の協力を得ながら、地域住民が主体となった事業の実施等により土淵町を活性化していくこととしている。そのために、多様な組織や地域住民とワークショップ等の意見交換を行い、「農用地保全」「地域資源活用」「生活支援」を軸にした土淵町農村活性化計画の策定をすることとした。

【立ち上げのきっかけ】

既存の地域運営組織と連携し、人材掘り起こし、事業化するために農村RMO事業は活用。
事務局遠野山里ネットが当初は先導＆事業の骨子づくりし、市も連携しながら協議会が自発的に地域のやる気や活躍の場をつくり、プロジェクト化していくために！！



土淵町農村活性化協議会の構成員

多様な組織が結集し、既に活動をしているそれぞれの組織の強みを活かして、更なる地域活性を図るために、令和4年度に「土淵町農村活性化協議会」が設立しました。

土淵町農村活性化協議会 構成団体一覧

令和5年2月現在

団体名	主な活動概要
土淵町まちづくり協議会	土淵町のまちづくりを総括、土淵地区センターの運営等
農事組合法人遠野こがらせ農産	土地改良地区の耕地の管理等
土淵地区環境保全活動協議会	多面的農用地保全などの環境保全活動を実施
株式会社遠野郷	カップ茶屋を運営し観光サービスを提供
米通自治会	小集落の強みを活かして交流事業等の活動が活発
認定 NPO 法人 遠野山・里・暮らしネットワーク	遠野市において農泊推進や地域づくり等を実践

【クラスター組織 ～草の根型組織の水平連携～】

遠野グリーン・ツーリズム研究会	遠野民泊協会 会員100名	伝統芸能団体
あやおり夢を咲かせる女性の会	遠野郷馬っこ王国 ライディングクラブ	NPO法人 遠野エコネット
農事組合法人 宮守川上流生産組合	あくていぶ まみ～	里山クラブ やかまし村

【理事・事務局】

会 長：菊池新一
副会長：2名
理 事：10名（内 監事2名）
事務局：12名
 （フルタイム・パート、地域おこし協力隊）
会 員：約40名
年予算：約5,500万円（R6）

【組織の目的】

遠野市を主たるフィールドとした、
 ①tourism 資源を生かした都市住民との交流の深化と移住の促進
 ②art 伝統文化・芸能・技術・技芸の伝承と進化と応用
 ③life 里地・里山における循環的な生活スタイルの再興と実践
 を柱に具体的な事業を行うことにより、社会全体の利益の増進に
 寄与することを目的としています。（定款 第3条）

【会長 菊池新一】 元遠野市役所産業振興部長、東北経済産業局 農商工連携伝道師、内閣府
 地域活性化伝道師、いわてグリーン・ツーリズムネットワーク会長、岩手県グリーン・ツーリ
 ズム推進協議会会長、農水省ボランティアプランナー、未来ある村 日本農泊連合副会長



9

グリーン・ツーリズムを通して生きがい、なりわい、遠野を元気に



地域住民主役
 人口1%協力
 暮らしぶり資源
 社会の利益増進
 継続的活動支援
住むことが誇り



10

【受賞歴】

平成20年度 日本パートナーシップ大賞 大賞…遠野ツーリズム体感合宿免許プログラム事業
 平成27年度 日本パートナーシップ大賞 オルタナ賞…小さな手仕事で被災地と世界を結ぶ協働事業
 平成27年度 農水省ディスカバリー農山漁村の宝「グローバル省受賞」…遠野のインバウンド事業
 令和03年度 東北農政局ディスカバリー農山漁村の宝アワード「優良事例」…遠野旅の産地直売所事業
 令和03年度 総務省 ふるさとづくり大賞「団体表彰」…遠野山・里・暮らしネットワーク
 令和05年度 まちむら機構 オーライ！にっぽん大賞 …コロナ禍から次のツーリズムへ発展
 令和05年度 第14回地域再生大賞 北海道・東北ブロック賞 … グリーン・ツーリズム推進
 令和6年度 農水省農泊インバウンド受入促進重点地域 … 農泊の多様性とインバウンド実践可能性
 令和6年度 農水省持続可能な農泊モデル地域 … 教育旅行から一般旅行者への農泊事業展開

20数年でグリーン・ツーリズム携わるメンバーの功績

を外部より評価もらうことの効果

11

遠野のグリーン・ツーリズム企画 主役を地域に



個人旅行（国内外）



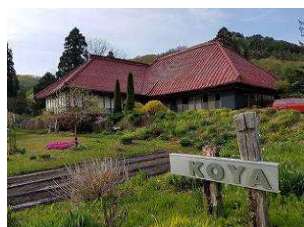
団体旅行・視察



ツーリズム型合宿免許



教育旅行（市内外）



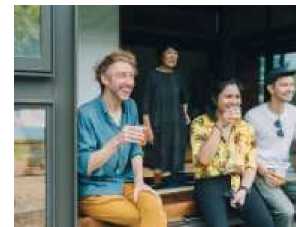
農家民泊



農家レストラン



農作業体験



立ち寄り農家



町場での体験



里山でのアクティビティ



棚田での交流



文化・歴史を巡る

12

令和4年度 住民主体の構想を作るまで

土淵町の方々と意見を交わした令和4年度

【土淵町農村活性化計画「でんでらパラダイス構想」をつくるまで】

- ・協議会の推薦で広く土淵町の人達が参加
- ・協議会メンバーのみでなく、出来るだけ多くの人で
ワーキンググループを結成
- ・米通自治会は7世帯全部が参加で独自の計画づくりを実施
- ・計画に参加した方々は事業意欲に溢れる皆さん



地域住民主体の計画を、自らで考えて、まとめあげ、
プレーヤーがプランナーになるためのワークショップ

13

岩手県遠野市土淵町農村RMO事業 土淵町農村活性化計画 でんでらパラダイス構想とは？

- ・柳田國男の『遠野物語』に登場する「デンデラ野」いわゆる「姥捨て山」。遠野のそれは他の地域のものとイメージは違いますが、土淵町には今でもその跡が人里近くにあります。
- ・遠野市には市民の手作りの舞台「遠野物語ファンタジー」があり、50年ほど続いている。
その中で土淵町が舞台となった「でんでらばらだいす」が演じられ好評を得た。あらすじは、「デンデラ野」で暮らすお年寄りたちが「昔取った杵柄」、知恵や技を駆使し協力して素晴らしい桃源郷をつくったという舞台です。
さらに集落や家族が困っているのをみかねて、人知れず里において手伝い、助けたというストーリーには観客も拍手喝采、大感動の舞台。
- ・このビジョンを「でんでらパラダイス」としたのは、
**若者も高齢者も自ら持てる知恵や、技を駆使し、
みんなが協力して土淵町を「パラダイス」
つまり桃源郷にしようとする思い**からです。



14

でんでらパラダイスセンター ～空き校舎を食・観光・生活の拠点に！～

課題

- ・旧土淵中学校が活用できない
- ・空き家・遊休地が増えている
- ・伝統技術の継承が出来ていない
- ・居りごとへの支援が滞っている
- ・居場所が減ってきている
- ・移動手段が限られている
- ・若者が参加出来る場が少ない

長所

- ・比較的生活しやすい
- ・魅力ある手芸家の職人がいる
- ・挑戦してみようという人材がいる
- ・もてなができる人材がいる

【プロジェクト概要】

空き校舎は、この構想のポイントである農用地保全、地域資源活用、生活支援の総合的な取り組みの拠点として、地域に開かれた活用方法を実現していく。また、高齢者や若者、子ども等の住民の居場所・活躍できる場所づくりを関係団体と連携して、支援策を実施する。



でんでらパラダイスセンター

空き校舎の活用を関係機関や地域の人材と協働し、レストラン活用（ワンダッシュ）、空き教室活用（手芸家や料理等の講習会、なりのいづくり、継承活動）を行う拠点とする。



生活支援の拡充

- ・移動サービスの実現
- ・多世代の居場所づくり
- ・移動販売車による買い物支援



空き教室やレストランの活用

- ・「ワンダッシュ」方式の活用
- ・手芸家の講習会や伝承、販売
- ・郷土料理の伝承の場づくり
- ・多世代の居場所となる空間
- ・多目的な利用の検討



市民農園整備

- ・空き校舎の隣接の農地を貸出す
- ・農地等に都市型農業を誘導
- ・農地は利用者と住民が協働で管理
- ・住民と交流を促す拠点として活用

総合活性化拠点

小集落の生活支援・活性化モデル『米通集落』

～メイドイン米通 命が守られ、育まれる平和なムラ～

課題

- ・農用地をどうするか？
- ・交通手段が不足している
- ・商店が近くにない
- ・新しいことをする余裕がない

長所

- ・豊かな里山の恵がある
- ・交流が好きなが多い集落

【プロジェクト概要】

小集落活性化を図るモデル地区を「米通集落」にして、「集落の人生設計」山は大きな資源「平和が一番」「飲んで飲んで交流大好き集落」をキーワードに事業推進していく。



農泊による小集落活性化

- ・農泊定員の確保・育成
- ・受け入れの件数づくり
- ・情報発信



スモールビジネス化

- ・体験メニューやツアー造成
- ・山の恵みの商品開発
- ・山林を活用した事業の創出

生活支援

『遠野物語』の聖地に！ ～土淵ゴールデンルート活性化～

課題

- ・観光資源を活かしきれていない
- ・人材が活かされていない

長所

- ・魅力ある食の文化がある
- ・伝統行事や芸能が残っている
- ・遠くらしい暮らしぶりや景観
- ・観光地としての魅力が多い
- ・魅力で交流好きなが多い

【プロジェクト概要】

地域内の観光資源、生活・文化資源、『遠野物語』、豊かな暮らし、食や人の魅力を地域資源とした土淵のゴールデンルートとしたストーリー性ある観光を実現する。



販売・体験拠点活性化

- ・ショップの活用やイベント等
- ・観光施設との連携した企画
- ・食の魅力化
- ・情報発信



農泊事業の活性化

- ・農泊の受け入れ拡大と支援
- ・土淵らしいツアーの造成・販売
- ・空き家や空き地の活用
- ・体験メニュー造成・販売



地域資源調査や人材育成

- ・地域や食の資源調査
- ・研修会の実施
- ・手芸家や食の伝承者の育成
- ・事業を担う人材の確保・育成

農用地活用

「売れる農作物栽培・販売」プロジェクト

課題

- ・増える遊休農地
- ・災害や鳥獣の被害が増加
- ・農作物が大変になってきた
- ・売れる農産物が中々できない

長所

- ・農用地の整備が進んでいる
- ・日本有数のホップの産地
- ・伝統野菜等栽培品目が豊富

【プロジェクト概要】

遊休農地活用のため関係機関や個人、団体と連携し、新規作物や高付加価値作物の栽培を実現させ、組織化や販売拠点の強化、販路確保を行い、継続的な取り組みしていく。



遊休農地管理・活用

- ・そば、大豆、小麦等の栽種
- ・湿田改善や農地調査等
- ・農産物対策の実証



高付加価値づくり・販売

- ・栽培方法の検討・実証
- ・農産物のグループ化
- ・販路の確保



高付加価値化と継続的な販売

- ・生産者団体の仕組みづくり
- ・販路確保及び継続的な活動
- ・イベントや販売拠点の強化



伝統野菜有効活用

- ・関係者と連携した伝統野菜の有効活用
- ・特産品の開発や販路拡大

農用地活用

実証事業（農用地活用）



- 【遊休農地活用】（新規作物・担い手）
- ・「蕎麦」「大豆」「小麦」栽培実証
 - ・鳥獣害対策の実証
 - ・遊休農地の調査（農業普及員や地元の住民と協力）と担い手の確保（市内の農業団体と連携）



- 【高付加価値づくり】（高級メロン）
- ・農業団体や農家で栽培実証
 - ・加工品の検討（アンケート・試食）
 - ・販路の検討・確保（首都圏等）
 - ・視察や専門家招聘による研修
 - ・グループ化も検討し、自立



【レストラン活用】

- ・ 改築済レストラン利活用の計画作り
- ・ 日替わり方式の食堂運営の検討
- ・ 試食会11回200名、メニュー試作
- ・ シェフ募集やPR、視察研修
- ・ R6～、自立運営、6000名年、シェフ20組、平均25営業、市民7割利用



【空き教室活用】

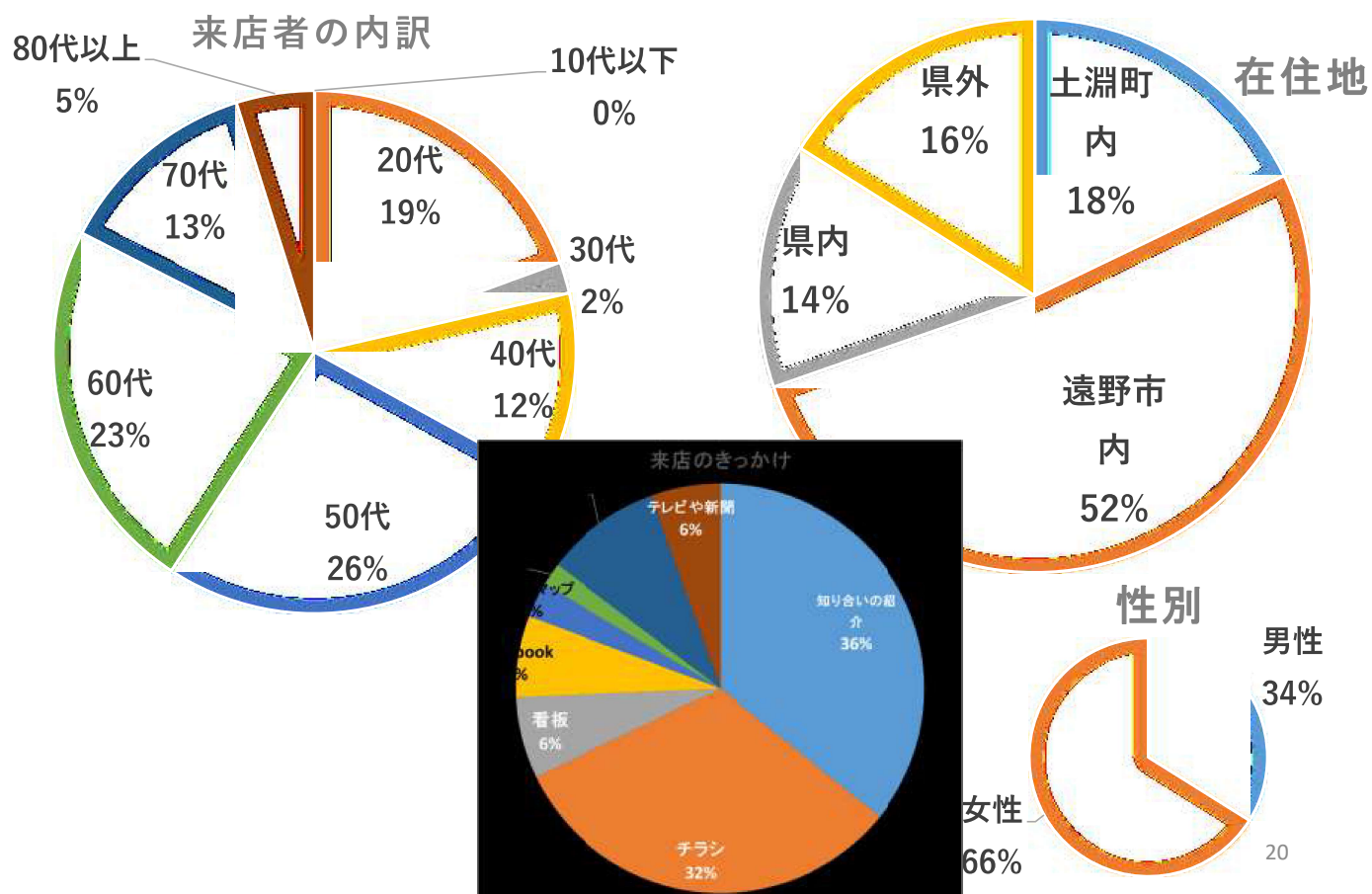
- ・ 手技芸の担い手づくり、販路検討
- ・ わら細工、竹細工、ホップ和紙
- ・ 今後担い手のグループ化を図る
- ・ 加工場や居場所、宿泊の検討
- ・ 遠野市と連携した取り組み

17

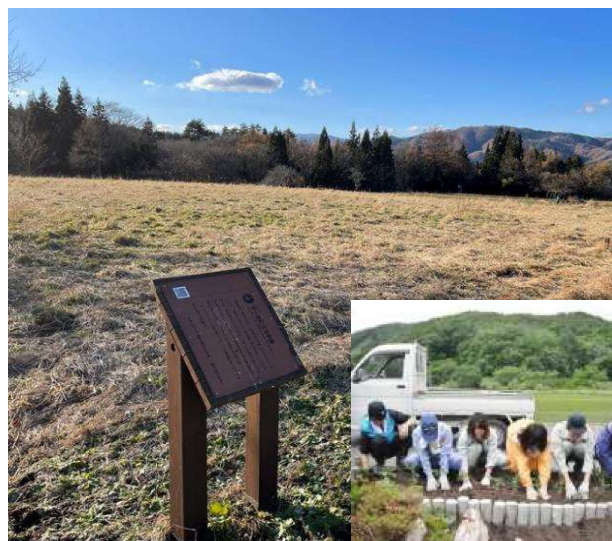




令和5－6年度実証事業（でんパラ 実証）



実証事業（地域資源活用②）



【販売・体験拠点強化】

- ・各種イベント開催の検討
- ・販売・体験拠点の充実

【農泊推進】

- ・農泊施設や担い手の拡大
- ・体験メニューの充実のための
モニターツアー実施
- ・各種ツアーの造成
(ex遠野物語ツアー等 21)

実証事業 (生活支援)



【市民農園・居場所づくり】

- ・市民農園の整備（遊休農地 20 a）
- ・会員募集と秋の作業と収穫
- ・レストランでの食材利用
- ・地域住民が管理・指導者
- ・地域内外の交流の促進の場

**みんなで作るシェアファーム！
農業のプロが野菜作りを伝授！**

参加者募集中

でんパラ市民農園

場所：遠野市土淵町土淵
年間参加費：3,500（1組）
65歳以上の土淵町民：2,500円

参加費には、土地賃料、講師・管理者への謝金、肥料・苗代・マルチ・支柱等の消耗品費等を含みます。

親子で学べる！

参加者全員で1つの畑をシェアし
みんなで農作業します！
地元農家さんが講師として畑づくりをサポート！
採れた野菜はお持ち帰りいただけます。

大根、芽キャベツ、ジャガイモ、サツマイモ、
玉ねぎ、ピーマン、ナスなどを栽培予定。

農業初心者、移住者、ファミリー、
どなたでもご参加いただけます。

お問合せ・お申込先
（認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク）
0198-62-0601
でんパラ市民農園代表：留場栄一
担当：遠野市地域おこし協力隊 角田静花

地域の方との
交流イベント
も！

伝統野菜
も栽培！

初心者大歓迎

実証事業（生活支援 総合的な活性化）



【スモールビジネス化】（小集落活性化）

- ・ 専門家の指導により窯と炭づくり
- ・ モニターツアー実施（仕組みづくり）
- ・ 炭焼きの実証を継続（品質各確保）
- ・ 炭に関する商品開発
- ・ 炭づくりツアー検討（交流による生きがい）

【買い物サービス支援】

- ・ 民生委員によるニーズ調査
- ・ 移動販売車の効果検証
- ・ 令和6年度から自走

23

農村RMOモデル形成事業 4年目の姿

高齢者の知恵と知恵を結集し、多世代が協力して安心と笑顔で暮らせるまち土淵



農用地の活用（3年間で協議が体制をつくり、担い手は事業者へ）

遊休
農地

【担い手確保】
農業団体



新規農
産物
(メロン)

【グループで
自立運営】
1団体+10農家



地域資源活用

（地域に仕事をつくり、協議会とネットワーク継続しサポート）

レストラン

グループで
自立運営

手工芸

グループで
自立運営

市民
農園

グループで
自立運営

農泊

【構成員主体】
山里ネット販売



実働
農村
RMO

一般RMO
(土淵町まち
づくり協議会)

生活支援

（協議会や構成員が主体、集落の生活を支え、生きがい創出）

空き教室
活用

【協議会主体】
市と協働の活用

居場所
買い物

【構成員主体】
まち協と社協

小集落活
性

【構成員主体】
まち協と自治会



24